

を與へて下さる』
と祈りました。

其後此の老人はもう胡弓をひくをせせず、無事に一生を送つたといふことで御座います、

(獨逸物語中より抄譯)

いそつぶ物語

其四十四 子供と狼

羊の番をして居る子供が、何時も、狼だくと呼び廻はつては、吃驚して出て来る村人等を見て、指さして、嘲笑つて居りました。所が、或日の夕方、眞個に狼がやつて來たので、これは大變だと思つて、大聲を上げて、『狼が來た誰か來てくれ〜』といつて、走り廻はりましたが、村人らは、又彼の小僧めが悪戯をして居るといつ

て、誰も出てきてくれません、夫で狼は、思ふ存分に羊を捕つて食つて歸りましたとさ。眞實のことをいつても、嘘咄きの言ふことだと、誰も信じません。

其四十五 子供と蛙

子供らが、よつてたかつて 池の端で遊んで居ると、蛙どもが、時々水の上に頭を出して來る、夫を面白がつて石を投げつけては殺して居ますと、とうとう 其中の一匹が 頭を出して來て言ひますには『子供さん、お願ひだから、どうか 止して下さいな ねなた方は、夫で面白いでせうが、私共は、一匹づゝ死んで行くのですよ』

室内のお遊び

(六〇) 南京さん